秋田勝彦先生のご定年に寄せて

― 素晴らしきスキー指導者 ―

今　福　一　寿

秋田先生は1947年北海道の根室市に生まれ、幼少期より恵まれた自然環境の中でスケートやスキーなどoutdoor sportsを愛好されました。明星大学は1964年（昭和39年）に開設され、先生は1969年4月に本学に就任されました。就任以来48年に亘り、学校法人明星学苑の教育理念「健康・真面目・努力」、特に「健康」という理念を大学教育で実現するため、ご自身の体育学専門領域を通じて研究と教育に専念されました。

先生は、スポーツ心理学や体育科教育の科目を担当されましたが、特に基礎スキーを専門領域とし、その技術的分析や指導法の探求に多くの時間を注がれました。研究分野では「運動時の不安に関する研究」において、学外で実施されるスキー授業時の受講生の学習過程、性格特性、技能水準、不安要因それぞれの関係性について分析するなど、スキー教育に直接的に役立つ多くの研究に取り組まれました。

ご自身も、全日本スキー連盟の副会長故青木巌氏やスキー界の重鎮である平沢文雄氏、子どものスキー運動と指導法を専門分野とする基礎スキー研究会BISA代表の六本木信久氏に師事し、シーズン中はゲレンデに立ち、滑りの中から感じる身体知や感覚運動知からの情報に基づくスキー技術の実践的探求を今も続けておられます。平沢文雄氏とは、オフシーズンに社会人を対象としたスキーダンストレーニング（短期間にスキー運動を学習させるためのmethod）の指導者として、スキー界発展に貢献されました。また、大学スキー指導者を対象とした講習会の講師を務めるなど、ここに記載できないほどの指導実践を積まれてきました。

このように、スキー指導において多くの専門的知識と技能、指導力を持つ先生は、スキーを通して本学学生に多くの教育的な貢献をされました。1987年1月3日から7日までの四泊五日の行程でスタートしたスキーの授業は、途中スノーボードの授業も増設され、先生ご退官の今季まで実に30年間続けられました。お正月のまだ薄暗い早朝に新宿駅に集合し、スキーバスの中で大学駅伝を見ながらゲレンデを目指すスキー授業は、私も10年余り同行させていただき、大きな思い出となりました。そして、スキー教育に対する先生の情熱を感じる機会となりました。多くの学生は、スキー授業で実施したバッチテストによってスキー1級やテクニカルなどの資格を取得し、生涯スポーツとしてスキーを継続していくための技能を習得し、quality of lifeを拡大させ、自然環境の大切さを実感し、大学生活におけるコミュニティーを拡大し、充実した大学生活を送りました。

クラブ活動では、基礎スキーを専門的に探究する本学ゲレンデスキー同好会の顧問としてその指導力を発揮し、多くのスキー専門家やスキークラブの指導者を輩出しました。さ

らに、ゲレンデスキー同好会のOB・OGを主体とする社会人スキークラブ・スカディースキークラブを主宰し、会長として組織をまとめながら学生や社会人を繋ぐ架け橋となり、本学学生のみならず大学を卒業してからのOB・OGの人間的扶養に努力され、教え子は数多く社会で活躍しています。クラブの会報「そくせき」にその長年の指導内容や会員の学びが記されています。

明星大学は、通学課程と通信教育課程を併設しています。通学課程の授業が終わると通信教育の夏期スクーリングや冬期スクーリング、出張講義をすることになります。特に先生は、夏期スクーリングの体育科教職関連科目おいて、講義や実技科目をご担当されました。炎天下での授業やプールでの水泳、暑い体育館でのボール運動など、体力的に厳しいスケジュールを長年にわたってご担当されました。本学通信教育は50年に亘り、幼稚園や小学校の教員を全国に多く輩出してきました。先生方のご努力に深く感謝申し上げます。そして、疲れ切ったスクーリング授業の17時過ぎから、当時通信教育課程長の小川先生率いる事務局と体育研究室でソフトボールの試合を真剣に戦ったことや、体育祭の教職員と学生との対抗リレーで、先生が第一走者、私が第二走者でバトンを引き継ぎ、先生の真剣な眼差しを感じながら真剣に走った時のことは楽しい思い出として今も忘れることができません。

先生は、笑顔とユーモアを交えながら学生、職員、教員と接し、温かいお人柄で大変人気があり、慕われておられました。先生のゼミは個性豊かな学生が集まり、学生と一緒に近くの山へトレッキングに行き、帰りに宴を囲むことがしばしばでした。教授会でも先生の周りは和やかな雰囲気で、退官された後の寂しさはひとしおであります。

大学における体育の教授者として、生涯にわたって基礎スキー技術と指導法を専門的に研究し、学生に後ろ姿で実践指導するその一貫した姿勢から、我々後輩は多くのことを学びました。これからも先生がご自身の健康に十分にご留意され、末永くゲレンデでストックを高く上げ、スキー指導をされることを心から願っております。どうかいつまでもお元気でいらして下さい。